

ラオスの GP 農法の農業の成果について

ラオスの農業支援として、サバナケットと他の3つの県で活動しています。
環境と条件が全く違う中で、GP 農法の農業は成果を出してきました。



ラオスは亜熱帯で、天候が雨季と乾季に分かれ雨季にはどしゃ降りの雨が続きあちこちで洪水が起きます。
洪水は1週間程続きます。
土壌の表土は流され、乾季になると土壌の表土はごつごつしています。
そしてメコン川は、雨季に流れ込んだ肥沃な土で満たされています。
メコン川の魚は種類も豊富です。
地元民の大事なたんぱく源になっています。

サバナケット県の国立農林研究所タッサノ農業研究センターで GP 農法での野菜作りをすると、2か月程で土の色が黒く変わりフカフカになりました。色々な野菜が大きく育っています。



もう一つ、タッサノ農業研究センター内ではヤシの木がブドウの実のようにびっしりと実をつけ始めました。これは GP 農法の（気）のエネルギーの影響です。

パクセから入ったパクソン群のポーラウエン高地はコーヒーが盛んな村です。

一軒の農家がティピカ（ブルーマウンテン科）にこだわって生産していましたが、ティピカは市場価格が高く収穫量が少ない状況でした。そこで GP 農法でティピカの栽培を始めたら種から2年で実が成りだしました。そして、収穫量が多くなりました。

それを見て他の村の方達もティピカを生産し始めました。これも GP 農法の（気）のエネルギーの影響です。



山岳の少数民族の所では、焼き畑農業を実施していましたが環境を壊してしまいます。
そこで、代わりになる方法で野菜を作ればということで GP 農法での農業を実践しました。
山岳地域で始めて3週間程で、草エクスだけを1週間に1度やり、3束1000キープで販売していた地域はサワランケン・タオイクン・ポータン村です。
一村10人くらいのグループに種を分けた地域です。

また、バチェンゲン・ノンボック村ではマンゴーの木がいつもなら実が成らないのに、セラミックの（気）の影響でその年はびっくりするぐらい実がつけました。

